

## 令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	64	学校名	県立袋井商業高等学校	校長名	山本耕司
------	----	-----	------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	商業の学びと実践との融合、「学びのサイクル」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で学んだことが袋商ショップで役に立ったと感じる生徒 85%以上</li> <li>・袋商ショップを経験することにより学びたい気持ちが高まった生徒 70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業で学んだことが袋商ショップで役に立った」 79.8%</li> <li>・「袋商ショップを経験することにより学びたい気持ちが高まった」 70.4%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の授業を通じて、挨拶や礼儀を指導していく必要がある。店舗経営において、簿記やマーケティングの授業で得た知識を活用した。</li> <li>・取り扱う商品の適正な仕入数量を把握したり、販売方法を工夫したりする等、生徒が主体的に学べるような指導を行う。</li> </ul>
	袋商ショップの充実	キャッシュレス決済等の会計方法改善とショップ業務のスリム化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッシュレス端末が契約でき、試験的に1台導入した。広報活動では、全校生徒で行っていたチラシ配りをやめ、袋井市のメール配信を利用した。放課後に実施していた講習会を水曜7限に行うなど改善した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッシュレス決済の店舗内総売上金額に対する割合は 25.6%であった。今後は事前の告知と端末使用料負担が課題である。</li> <li>・袋井市のメール配信を利用したが、来場客数に大きな変化はなく、一定の効果が出ている。</li> <li>・チラシのポスティングをやめ、放課後に実施していた講習会等を7限に実施することで、関係職員・生徒の大幅な業務削減ができた。</li> </ul>
	商業検定合格者・資格取得者の増加（中上位層の学力伸長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の簿記、情報処理、電卓検定合格率全て 90%以上</li> <li>・卒業までに1級を取得する生徒 50%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の資格取得状況は、全商情報処理3級 96.8%、全商ビジネス計算（電卓）2級 50.7%、全商簿記 90.7%（1月末）</li> <li>・3年生1級取得生徒 34%（1月末）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理検定3級、簿記検定3級合格者は目標を達成したが、電卓検定では2級を受検したため目標を達成することができなかった。</li> <li>・3年生の検定1級取得者は 34%と目標を達成することができなかった。1年時から更に丁寧に検定指導を行う。</li> </ul>
イ	生徒の能力を引き出す授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書や教材等、授業のUD化を実践する教員 90%以上</li> <li>・教育活動でクロムブックを活用している教員 75%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「板書、プリント等、授業のUD化を実践した」 80.0%</li> <li>・「教育活動でクロムブック等 ICT 機器を活用した」 82.9%</li> <li>・「対話型・探究型</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「板書、プリント等、授業のUD化を実践」が昨年度 76.7%から 80.0%に上昇した。</li> <li>・新学習指導要領の運用に基づいたクロムブックや ICT 機器の活用、対話型・探究型の授業が定着してきている。</li> <li>・「袋商で受けている授業に満足し</li> </ul>

様式第3号

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話型・探究型活動を取り入れた授業を行っている教員 75%以上</li> <li>・授業に満足している生徒 80%以上</li> </ul>	<p>活動を取り入れた授業を行った」82.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業に満足している。」76.1%</li> </ul>	<p>ている」生徒が昨年度 80.2%から 76.1%と減少していることは看過できない。授業アンケート等を通して授業の難易度をはじめ、生徒の求める授業を分析し、授業改善を行う。</p>	
基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して基礎力診断結果に向上が見られる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GTZ の D3 の生徒 1年 5人 (9人) 2年 9人 (23人) 3年 15人 (3人) ( ) は解消人数</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期始めに学習時間を確保したり、検査結果分析と授業改善を行っている成果が出ている。また、各学年の D3 生徒の補習や課題の結果、多くの生徒が D3 を解消した。</li> <li>・朝学習や診断前の放課後補習を行い、家庭学習課題の成果が反映された。また、事前に担任が学習の意味や目標の設定を伝えたことにより、学習意識が高まった。学習習慣の定着まではできていない生徒がいるため、継続した働きかけや取組が必要であり、中学段階の学習範囲が身に付いていない生徒への対応や進路実現に向けた意識の継続が課題である。</li> </ul>	
観点別評価の実践と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価規準に即した観点別評価を実施した教員 100%</li> <li>・評価方法・指導方法について検討した教員 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「評価規準に即した観点別評価を実施した」97.1%</li> <li>・「評価方法・指導方法について検討した」100%</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から成績処理日を設け、集中的に成績処理を行った結果、評価ミスは皆無であった。</li> <li>・評価規準に沿った評価及びより良い評価規準や評価材料の検討が進んでいる。</li> </ul>	
読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間で4冊以上の読書をした生徒 75%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間4冊以上読書をした生徒 27.5%、見込みがある生徒 53.1%、計 80.6% (1月末)</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書の時間を確保する必要がある。読書はすべての教科の基礎や感性を育てる元となるものなので、読書を勧める指導や環境づくりを継続していく。</li> </ul>	
ウ	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席年間6回以上の生徒 10%以下</li> <li>・朝食摂取率 90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席年間6回以上の生徒 12% (46人) 1年 6% (8人) 2年 19% (27人) 3年 9% (11人)</li> <li>・朝食摂取率 94.8% 1年 94.6% 2年 93.3% 3年 96.4%</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが5類移行した影響もあり、欠席年間6回以上の生徒が12%で目標に若干届かなかった。長欠傾向にある生徒の状況把握を行い、学年、教務課、保健課、管理職で連携して、適切で迅速な対応を行うことができた。</li> <li>・朝食摂取率は目標達成できた。基本的な生活習慣の確立を引き続き呼びかけて行く。</li> </ul>
	ビジネスマナー(BM)指導の徹底と改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識・ビジネスマナーの育成を意識した指導を行っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「規範意識・ビジネスマナーの育成を意識した指導を行った」97.1%</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が袋商ショップや進路決定を意識して的確な行動がとれた。校内外で自覚とプライドを持った生活が概ねできている。</li> </ul>

様式第3号

		<p>教員 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校則、指導基準の見直しを昨年度に引き続き実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度内に校則をホームページに掲載。男子頭髪、女子眉毛の指導基準の見直しを行った。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校で校則の見直しが進む一方で、本校の校則、指導基準を厳しいと感じる生徒・保護者（アンケート結果）が増加傾向にあるため、次年度以降も継続して校則や指導基準の見直しを行う。</li> </ul>
	創造力と協働力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シズクリ PROJECT に参加した生徒の満足度 80%以上</li> <li>・探究（提案）型プログラムへの生徒派遣・参加奨励</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の満足度 参加生徒：3年 13人、85%</li> <li>・ビジネスリーダー育成セミナー2年 2人参加</li> <li>・静岡文化芸術大学にて2年 140人</li> <li>・「市議と話そう：25人」など</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シズクリ PROJECT では、生徒が中心となり地域活性化を目的として活動を行った。</li> <li>・ビジネスリーダー育成セミナーは生徒2人が参加し、年6回の活動に真面目に取り組んだ。大学授業体験では、2年生が2グループに分かれて静岡文化芸術大学で「ユニバーサルデザイン」「地域研究」の講義を受け、新たな発見と商業の学びを深める機会となった。</li> </ul>
エ	希望する進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年終了時まで進路希望「未定」0人</li> <li>・進路指導が適切にされていると考える生徒 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年終了時進路希望「未定者」0人</li> <li>・「進路指導（面談、補習、情報提供）」が適切に行われている」83.6%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路希望に応じて適切な個別指導を行うことができた。更に進路課と学年部との連携や情報共有を充実させていく。</li> <li>・「Handy 進路指導室」の導入など、教員の進路指導力を高める研修や指導体制を充実させる。</li> </ul>
	多様な生徒の支援及び特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分間カウンセリング実施率 95%以上</li> <li>・SC 相談件数年間 20件以上</li> <li>・ケース会議の積極的な開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3分間カウンセリング実施率」99%</li> <li>・SC 相談件数年間 19件（1月末）</li> <li>・ケース会議回数年間 7回（1月末）</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談できる体制、悩みを打ち明けやすい環境を構築できた。</li> <li>・SC 相談（月2回）が全校に浸透し、生徒・保護者が気軽に相談できており、多様な相談・悩みの解決に大変役立っている。</li> <li>・初期対応としてケース会議を開催することができた。</li> </ul>
オ	地域連携・貢献・協働の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1部活動1ボランティアの実践 100%</li> <li>・地域防災訓練に参加した生徒 90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1部活動1ボランティアの実践」100%</li> <li>・「地域防災訓練に参加した生徒」14.6%（津波警報の影響で中止の地区多）</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1部活動1ボランティア開始3年目となり、計画から実施の流れが軌道に乗ってきた。各部活動で地域貢献を意識した活動を工夫して実施している。広報・PRに繋げることが今後の課題である。</li> <li>・各地区で防災訓練の中止が多かったが、自然災害等について考える機会を工夫していく。</li> </ul>
	地域に根ざし開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HP、SNSによる情報発信</li> <li>・広報ポスターに加えて+チラシ作成年間 6回以上</li> <li>・専門高校合同説明会開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの毎日更新を継続中 249（1月末）、学校公式Instagram フォロワー900人（1月末）</li> <li>・「学校HP、SNS等による情報発信を</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・InstagramとHPとの使い分けを模索している。どちらも学校に親しみを持ち、よりよく知ってもらう手段として、多くの職員が発信者となり継続する。</li> <li>・ポスターに生徒の姿や活動を掲載することで、生き生きとした学校生活の様子や学校の特色を伝えるこ</li> </ul>

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事等の運営に参加した保護者のべ 50 人以上</li> </ul>	<p>行った」62.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターチラシを9種作成し、配布地区拡大した。</li> <li>・10月に専門高校等（5校）による合同説明会を開催した。</li> <li>・学校行事等の運営に参加した保護者のべ41人</li> </ul>		<p>とができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続き専門高校等合同説明会を開催し、中学生・保護者に向け、学校の特色や魅力を発信する機会となった。</li> <li>・マラソン大会のボランティアは昨年より多くの協力を得ることができた。PTA活動として定着を目指す。</li> </ul>
カ	部活動と学校行事の一層の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動に積極的に参加している生徒70%以上</li> <li>・学校行事に積極的に参加している生徒80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「部活動に意欲的に取り組んでいる」85.9%</li> <li>・「学校行事に意欲的に取り組んでいる」95.6%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動にやりがいを感じ、意欲的に活動している生徒が多い。一方で部活動に活動意義を持っていない生徒や転部先で思うように活動できていない生徒が一定数おり、そのような生徒をどのように指導していくかが課題である。</li> <li>・学校行事の参加率が高く、また意欲的に運営に取り組む姿勢が見られた。</li> <li>・部活動や学校行事を通じて、心身ともに逞しく成長する様子が見られ、創立100周年行事に携われたことも大きな要因である。今後、行事等で更に生徒が中心となって運営にあたることによって、より主体的な姿勢を育成する。</li> </ul>
キ	安全と環境に配慮した教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推奨される感染症対策の徹底</li> <li>・定期的な校内点検と迅速な対応</li> <li>・電気・ガス・水道使用量5%削減、ごみ処分量5%削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「マスク、換気、密回避などのコロナ対策など安全な教育活動を心掛けた」91.4%</li> <li>・廊下窓からの転落防止対策、放送機器の修繕、職員室空調整備を実施。</li> <li>・「経費やごみの削減を意識して業務を行っている」97.2%（昨年比削減率）電気3%、ガス90%、水道10%、可燃ごみ0.1%、不燃ごみ79%。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策として、引き続き手指消毒・校舎内消毒を励行した。感染対策や換気の徹底については、今後も継続していく。</li> <li>・施設設備の修繕等保留案件は多数あるが環境改善に関する予算措置は厳しい状況にある。緊急性をもとに執行順位を随時確認し安全な環境を目指す。</li> <li>・すべての光熱水費で昨年比減となった。職員の私物の持ち帰りの取組やごみを減らす意識が醸成された。節約・削減を習慣化できるよう呼びかけを継続する。</li> </ul>

様式第3号

	<p>人権教育の一層の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期のいじめアンケートでいじめの可能性がある回答への聞き取り実施 100%</li> <li>・いじめが疑われる事案を認知後、対応の遅れ 0 件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめの可能性がある回答への聞き取り実施」100%</li> <li>・「対応の遅れ」0 件</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート記述から 1 学期に 1 件、2 学期に 4 件のすべて聞き取りを実施した。5 件のうち、対応済 2 件、対応中 3 件（1/11 現在）である。</li> <li>・アンケートを、年 1 回から年 3 回に増やしたことにより、いじめの早期発見・早期対応が可能となった。</li> </ul>
	<p>働き方改革に対する組織的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材活用により教員に負担軽減の実感がある</li> <li>・やめる・へらす・かえるを活用した業務改善 5 件以上</li> <li>・職員安全衛生委員会やストレスチェック事業を活用した職場環境等の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「外部人材（部活動、交通、進路等）の活用により教職員の負担軽減効果があった」54.2%</li> <li>・業務改善件数 9 件</li> <li>「既存の業務や行事を見直し、業務の精選、効率化を図った」77.1%</li> <li>・職員安全衛生委員会を月 1 回開催した。</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県事業で部活動指導員 3 人、スポーツエキスパート 1 人、文化の匠 1 人、学習支援員 4 人を活用した。今後も外部人材を積極的に活用する。</li> <li>・各分掌や学年において精選、効率化に努める意識が高くなっている。来年度は学級減・職員減に伴い、学校行事や分掌業務・部活動、教育課程の見直しを行う。</li> <li>・落ち着いて成績処理が行えるように「成績処理日」を設けた。来年度からは採点業務の軽減のためブラウザ型採点システム「百問繚乱」を導入する。</li> <li>・働きやすい職場環境を構築するため働き方改革とストレス対策等に継続して取り組む。</li> </ul>
<p>ク</p>	<p>創立 100 周年記念事業の実行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式典、講演会の開催</li> <li>・記念事業の実施</li> <li>・記念誌の発行</li> <li>・記念事業全体の記録整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11 月 10 日記念式典、記念講演</li> <li>・机椅子、緞帳・スクリーンの購入</li> <li>・記念誌の発行</li> <li>・トートバック、クリアファイル、お茶、菓子</li> <li>・バナー（スローガン・ロゴ）、ポスター、新聞広告</li> <li>・写真、記録</li> <li>・会計報告</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会・後援会・PTA と連携し、バナーやポスターの作成、記念誌の編集、記念事業や記念品など計画的に行うことができた。</li> <li>・式典、講演会の運営も職員・生徒が役割を果たし、素晴らしい式典であった。</li> <li>・記録整理、会計報告も滞りなく終えることができた。</li> </ul>